

## 2025年度「メディア・リテラシー演習B」に参加した学生の感想

●ラジオ番組の制作を行うことによって、番組を作るのはこんなにも大変なのかと思われ知らされました。また、ラジオに限らず、他のメディアにおいても、必要な情報を取捨選択し、人々に届けることがおこなわれていて、それは様々な人の苦労の上に成り立っているのだと身に染みて感じることができました。また、ただ調べたことだけを伝えるのではなく、自分たちの考えや思いをのせて伝えなければならないと教えてもらいました。そうすることによって、大学生である私たちならではの視点で物事を捉えることができ、それを視聴者の人々にわかりやすくまとめて伝えることができたのではないかと考えます。そして、戦争継承者の思いと私たちの思いが込められた番組を届け、アーカイブとして残すことによって、私たちにとっての戦争の継承を形作り、残すことができました。番組の制作を通じて様々な戦争継承者にインタビューをおこなってきましたが、私も戦争継承者の一員になれた気がしました。むさしのFMの久保田さんが「20年後にもし子どもができていたら戦争の絵本を子どもに読み聞かせてください」とおっしゃったが、私にももし子どもができていたら、このラジオ番組を聞かせると思います。内容は理解できなくても、漠然と戦争が昔あったことだけでも知ってほしい。そして、100年前の歴史を継承するために尽力している人々の存在を知る機会にしてほしい。もし20年後の日本が平和であっても、平和が当たり前ではないことを伝えたいと思います。そして、私がこの番組を作ったことを自慢したいです。

●番組制作を通して様々な意見を聞くことが大事だということを得たと思います。「継承」と聞いて、私が最初に思い浮かんだものは歴史資料でした。しかし、創作の継承、体験を通じた継承があることを知りました。そして、それらに携わる人の想いを知ることができました。切り口がたくさんあるからこそ、1人だけの意見ではなく、複数人の意見を聞くことが大事だと思いました。

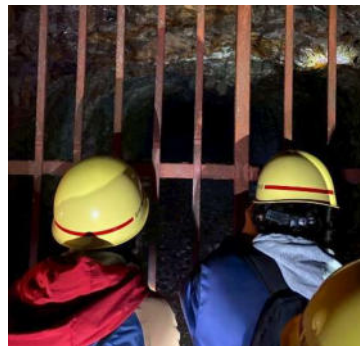


●演習授業を履修したのは初めてで、普段の授業とは違い、自ら調べ動くことで作品を完成させていく楽しさを知ることができました。もともと私は積極性があまりなく、活動していく上で苦労したこともありましたが、この半年で確実に成長できたと感じています。また、大学での活動を家族や周りの人に知ってもらうことはあまりないので、今回の活動を報告したら褒められて嬉しかったです。将来の自信になるいい経験でした。

●戦争時の文章から当時の成蹊に通っていた学生が戦争に対してどのような態度であったのかということがわかって、公文書や当時の文章の重要さを認識しました。さらに、アーキビストという資格についてもこの演習を通して初めて知ることができました。戦後80年経っても私たち若者に戦争のことが語り継がれているのは、このような継承をする人がいるからなのだと考えました。生放送番組で最も印象に残ったのは、戦後100年に向けてメッセージをいただく際に、「大前提として戦後100年を迎えられるようにしなくてはいけない」とおっしゃっていたことでした。当たり前には戦後100年を迎えられるわけではないため、まず戦後100年を迎えられるように今の若い世代が戦争の記憶の継承をしていかなければならないと責任を感じました。



●ラジオ局で実際に生放送が行われている様子を見学できたり、プロのアナウンサーの方に発声方法や話し方を教えていただいたりして、座学ではできない体験ができたことが貴重な体験だったと思います。



●私は今回の活動を通じて、「準備力」を身につけられたと思います。私はアナウンサー役を務めたのですが、準備をせずその場で読むと上手く読めませんでした。そこで準備の大切さを痛感しました。それを経験できたおかげで準備をするように自身を改め、発声練習や原稿を繰り返し復唱するなど多くの工夫をしました。そのおかげで本番に噛んだり、声が小さくなるようなことが減ったと思います。

●ラジオ番組制作の中で、人の温かさを改めて感じるようになりました。チームメンバーもそうですが、先生やむさしのFMの久保田さん、インタビュー対象の方々と言葉のやりとりをしていると、皆さん誰も大学生を下に見たり、軽く扱う発言をしたりしていなかったことを思い出しました。むしろ番組の趣旨を理解して応援してくださいました。そして相手の考えを知りたい、自分の想いを伝えたいと思っていることがわかりました。その熱を番組にすることを通して、「この想いを視聴者の方に届けるんだ！」というメディアとしての使命感をもつことができました。

## 2025年度「メディア・リテラシー演習B」に参加した学生から 皆さんへのメッセージ

●私はこの授業を通して、メディアの見方が変わりました。それまで私はラジオを聴く機会が少ないため、ラジオを身近なメディアとして感じてはいませんでした。しかし実際にラジオ番組を一から制作してみると、必要な情報の取捨選択や言葉選び、放送時間内に収める工夫など、注意すべき点や意識を働かせる点がとても多く、この大変さは他のメディアでも同じなのだと実感しました。テレビや新聞でも同じように、不特定多数の人々に伝えたいことをわかりやすく伝えます。その点ではラジオも他のメディアと相違ないのだと実感したのです。また、番組制作は大変ですが、その分完成した時の達成感はとても大きいです。最終的に番組制作過程を振り返ってみると、様々な知識を身に付けながら、自分の考えを深めていくことができたなと感じます。番組を制作するにあたって、事前に自分で調べたり、インタビューを行うことによって、自然と自分を成長させることができると思います。

●普段の授業ではできない貴重な体験ができます。どんなテーマで番組を制作することになっても半年間そのテーマについてたくさん考えることになるので、自分の考えを深める機会になると思います。

●普段の講義とは違い、少人数ですし、履修生みんなで協力をしながら一つのものを作り上げるということを行います。そのため達成感を味わえると思います。また、文学部の学生しか受講できないという点も「特別な授業」という感覚で授業を受けられます。他学部の学生とは違う経験ができるのもおすすめの点です。

●ラジオがどう作られているのか、それを実際に体験し、知ることができる、貴重な機会です。また、様々な人とのインタビューを通して、自分にはない意見を知ることができます。さらに、同じ学科であっても関わりが少なかった人とも話せる、友達作りの場でもあります。だから、普段ラジオを聴かないからという理由で履修しないのは勿体無いと思います。

●ちょっとした興味があったら勢いでやってみることで、自分にとってとても貴重な経験になるし、達成感があるので自信が得られます。

●この講義では多くの新しい経験や力を得られると思います。特に取材活動のなかで多くの専門家の方の話を聞くのでそういった知識もつきますし、メールや電話などのマナーといった社会のルール、そして一緒に活動する仲間とのコミュニケーション力も得られると思います。何もよりも完成した時の大きな達成感他の言葉では言い表せないほどのものです。失敗も多くなりましたが、それも含めて経験です。ぜひ参加してみてください！

●現代社会学科では様々なメディアを学びますが、声だけで伝えるメディア「ラジオ」を実践形式で学ぶことができる機会は滅多にないので、是非受講してほしいです。私はラジオが大好きだからという理由で受講しましたが、制作のノウハウや企画構成については無知だったため、「ラジオに全然興味ない!」「何かチャレンジしたい」という方も安心して授業に臨んでほしいです。録音放送、生放送を仲間達と作り上げる体験はとても貴重で、終わったときには涙が溢れそうなほどの達成感がありました。皆さんの言葉が、頑張りが、電波によって多くの人々の心を動かすことを楽しみにしています。

